

# 外来診療業務への専任薬剤師の配置と 保険薬局との連携強化による患者治療への貢献

愛媛県立南宇和病院 薬剤部

○尾上 裕貴, 烏谷 政和, 中平 真由美, 中野 友寛, 吉田 三生, 森 正一

## 背景・目的

愛媛県立南宇和病院（以下、当院）は愛媛県最南端に位置し、地域医療の中核病院としての役割を担っているが、現在は常勤医師数が定員 22 名中 8 名と他の多くの病院と同様、医療崩壊の危機に見舞われながら、地域医師会の有志や他地域からの応援医師による協力で何とか診療を続けており、看護師など他の医療スタッフの確保も苦しい状況である。当部としてはその中で**病棟薬剤業務を開始して 2 年が経過**し薬剤師の病棟やベッドサイドでの患者治療に本格的に参画できており、質の高い薬物療法に貢献でき、チーム医療の実践における薬剤師の存在意義や有益性を証明しつつある。さらに**今後、薬剤師の地域医療貢献への重要性がますます高まっていく中、外来診療業務への薬剤師配置を開始**し、一定の成果を収めつつあるので報告する。

## 結論

徐々に外来業務専任薬剤師の存在が認知されるようになり、**医師や看護師から相談を受ける機会が増加**した。現在では薬に関することは薬剤師に相談する流れが定着しつつあり、それに伴い、薬剤師からの患者介入も増え、**薬物療法への積極的な提案に繋がっている**。多くの応援医師で行っている外来診療に薬剤師が積極的に介入することにより、患者の薬物治療に薬剤師が貢献できているとの**他職種からの評価も得られている**。また、**保険薬局との情報交換が盛ん**になることで、お互いの業務が円滑に進むようになった。さらに、他の医療スタッフの薬に対する関心が高まっていることも好影響を及ぼしていると考える。今後も本業務にますます積極的に取り組み、外来診療へ貢献をしてまいりたい。

## 当院の概要

病床数：120 床 病棟数：3 病棟 入院患者：平均 100 人  
 医師：常勤 8 名  
 IT 整備：調剤業務支援システム  
 医療用画像管理システム上の患者情報、検査情報（電子カルテ、オーダーングシステム**未導入**）  
 薬剤部：薬剤師 6 名（非常勤 1 名含）、事務職員 3 名  
 病棟薬剤業務開始：平成 25 年 11 月 1 日  
 薬剤管理指導件数：平均 120 件 / 月  
 退院時薬剤情報管理指導件数：平均 65 件 / 月

## 病院内での薬剤師の配置状況

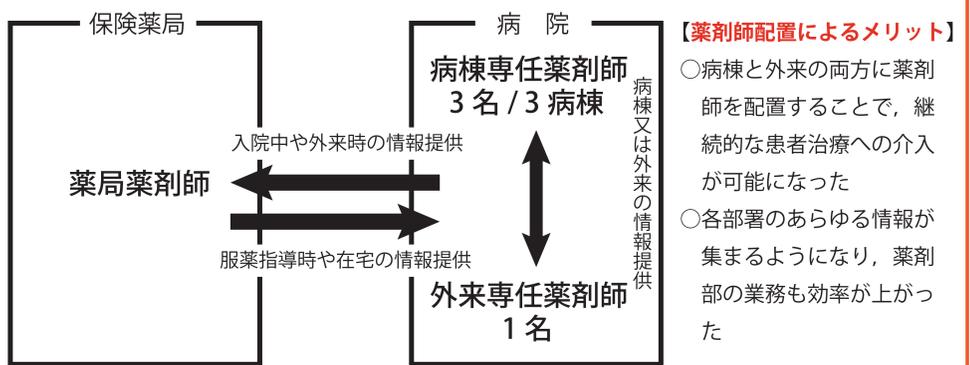


図 1 病院内での薬剤師の配置と保険薬局との連携

## 外来診療業務への専任薬剤師の配置



図 2 内科外来処置室の様子

### 【外来業務の概要】

薬剤師：1 名固定制（外来業務専任）  
 業務時間：月～金 8:30～17:15  
 業務場所：内科外来処置室（デスクワークを行う場所）  
 活動範囲：外来全科  
 \* 当院診療科：内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科  
 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科  
 外来業務開始：平成 27 年 7 月 21 日  
 院外処方せん発行率：99.97%（年平均）

### 外来における業務内容

項目	詳細
規則的業務	翌日分の内科カルテを以下の項目確認 腎機能に応じた投与量、検査値、相互作用、病態禁忌薬、多剤併用等 必要に応じてカルテに処方提案を記載または医師に直接相談
不規則的業務	入院患者面談 処方箋、処方録への記載支援 DI 業務 持参薬、紹介状の処方内容鑑別 疑義照会の対応 外来服薬指導 外来化学療法への介入等



図 3 翌日の内科カルテ確認

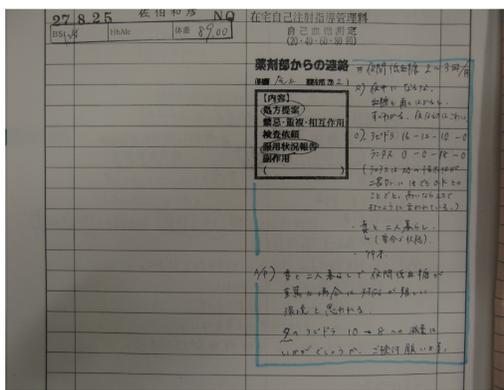


図 4 カルテへの処方提案の記載例

### 【業務開始によるメリット】

- 外来に薬剤師を配置することで薬剤に関する情報提供等が迅速に行え、診療業務が円滑に進むようになった
- 外来患者の薬物療法に早期から介入し参画する中で、医師や看護師から認知されるようになった
- 薬剤師としては外来診療における薬物治療の特性を学ぶことができ、病棟業務だけでは得られない経験値を積むことができた

## 保険薬局と病院薬剤師の連携強化

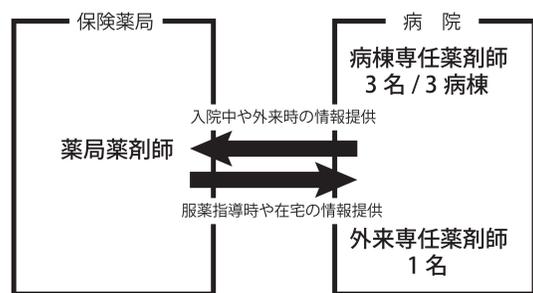


図 5 病院薬剤師と保険薬局間での連携

### 病棟専任薬剤師による退院時指導の事前確認内容

項目	詳細
退院先	退院処方等にも影響するため 自宅、施設、病院等を把握する
退院処方	当院フォローの場合次回受診日、 他院フォローの場合必要日数分 までの処方日数、内容を確認する
お薬手帳 シール	以下の内容を必要に応じて記載 追加薬、中止薬 保険薬局や介護者への伝言 検査値、アドヒアランス
外来処方箋 への反映	退院時処方内容を反映させる

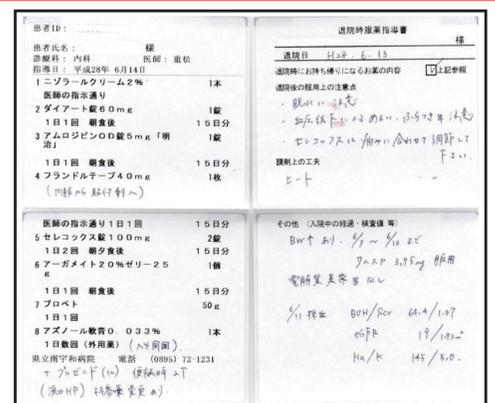


図 6 退院時指導時のお薬手帳への入院中経過の記載例

### 【業務開始によるメリット】

- お薬手帳に入院中経過を記載することで、保険薬局での退院後のフォローが行いやすくなった（他職種からの意見）
- 外来診療では保険薬局と病院の間で薬剤師同士が連携することで、情報交換が盛んになり、お互いの業務が円滑に進むようになった

### 外来専任薬剤師配置前後での保険薬局との連携の変化

項目	配置前	配置後
疑義照会	FAX を薬剤部から診療科に届け、回答を依頼 紙面だけでは内容が伝わらないこともあった	適宜、薬剤師が直接医師に内容を説明することで、的確に伝わるようになった
業務上の 問い合わせ	保険薬局と業務上の質問や患者情報のやり取り をするケースは日常業務ではほとんどなかった	保険薬局から積極的に問い合わせてもらえるようになり、外来患者の治療に協働で参画するケースも出てきた